

はじめに

全国的に見て、児童生徒へのいじめは依然深刻な状況が続いています。そのような中で、第183回国会（常会）において「いじめ防止対策推進法」が成立し、平成25年6月28日に公布されました。

本校では、春日部市教育委員会が推進する「伝え合い 学び合い 育ち合い 思い合いがうれしい教室」を目指し、学校教育目標である「豊かな心を持ち自ら学ぶたくましい子」の実現を目指して全職員一丸となって、教育活動を展開しております。すべての子どもたちが笑顔あふれ、夢と希望を胸に抱き、輝く未来に向けて健やかに成長することを切に願っています。

現在、社会問題となっているいじめから子どもたちを守るために、これまでも「いじめは絶対にしない、させない、許さない」という信念のもと、いじめを生まない土壌づくりのための様々な対策を講じてきました。それらをさらに確実なものとするため、いじめの問題に関する総合的な対策を策定し、いじめの防止に取り組んでいきます。

第1 いじめの防止等のための基本的な考え方

1 いじめの定義【いじめ防止対策推進法 第2条】

「いじめ」とは、児童等に対して、当該児童等が在籍する学校に在籍している等当該児童等と一定の人的関係にある他の児童等が行う心理的又は物理的な影響を与える行為（インターネットを通じて行われるものを含む。）であって、当該行為の対象となった児童等が心身の苦痛を感じているものをいう。

2 いじめ防止等のための基本的な考え方【いじめ防止対策推進法 第13条】

（学校いじめ防止基本方針）

学校は、いじめ防止基本方針又は地方いじめ防止基本方針を参酌し、その学校の実情に応じ、当該学校におけるいじめの防止等のための対策に関する基本的な方針を定めるものとする。

法の趣旨を踏まえ、本校の実情に応じ、いじめの防止等のための基本的な方針（以下「学校基本方針」という。）を示すとともに、いじめの防止や早期発見、いじめへの対処が、本校において組織的、計画的かつ迅速に行われるよう、講ずるべき対策の内容を具体的に記載する。

また、いじめの防止等に係る日常的な取組の検証・見直しを図る仕組みや、本校におけるいじめの防止に資する啓発活動や教育的取組を具体的に定める。

更に、取組の実効性を高めるため、本校の学校基本方針が、実情に即してきちんと機能しているかを点検し、必要に応じて見直すPDCAサイクルを盛り込む。

第2 いじめの防止等のために本校が実施する取組

1 いじめの防止等の対策のための組織の設置【いじめ防止対策推進法 第22条】

学校は、当該学校におけるいじめの防止等に関する措置を実行的に行うため、当該学校の複数の教職員、心理、福祉等に関する専門的な知識を有する者その他の関係者により構成されるいじめ防止等の対策のための組織を置くものとする。

本校は、いじめ防止等の対策を実効的に行うための常設の組織として「元気アップ推進委員会」（以下「推進委員会」という。）を設置する。

推進委員会は、本校の規律部会を母体とし、原則として校長、教頭、教務主任、生徒指導主任、学年主任、養護教諭、教育相談主任で構成するものとする。

また、推進委員会は学校基本方針に基づく、いじめの防止等に関する取組を実効的に行う際の中核となる組織であり、必要に応じて心理や福祉の専門家、弁護士、医師、教員・警察官経験者、PTA、地域の方など外部専門家等の参加を図りながら対応することで、より実効的ないじめ問題の解決に資するよう工夫する。

推進委員会の具体的な役割は、次のとおりである。

- ア 取組の実施や具体的な年間計画の作成・実行・検証・修正の中核としての役割
- イ いじめの相談・通報の窓口としての役割
- ウ 情報の収集と記録、共有を行う役割
- エ いじめの疑いに係る情報への対応を組織的に実施する中核としての役割

2 本校におけるいじめ防止等に関する取組

本校は、春日部市教育委員会と連携して、いじめの防止や早期発見、いじめへの迅速な対応等に当たる。

(1) いじめの未然防止のための取組

いじめはどの児童にも起こりうるという事実を踏まえ、全ての児童を対象に、いじめに向かわせないための未然防止に取り組む。

未然防止の基本的な考えとして、学校は、児童同士心の通じ合うコミュニケーション能力を身に付け、規律正しい態度で授業や行事に主体的に参加・活躍できるような授業づくりや集団づくりを行う。また、集団の一員としての自尊感情を高めていくことにより、互いを認め合える人間関係・学校風土をつくっていく。

更に、教職員の言動が、児童を傷つけたり、他の児童によるいじめを助長したりすることのないよう、指導の在り方に細心の注意を払う。

ア 学級経営の充実

児童は学校生活の大半を学級で過ごすため、いじめの発生を防止するには、学級づくりがとても重要であることから、次の点に留意し、学級経営の充実を図る。

- (ア) 児童が安心して学校生活を送れるよう配慮する。
 - ① 児童の気持ちを共感的に受け止める。
 - ② 居場所をつくる。
 - ③ 見守る。（「いつもどこかで先生は見守っている。」）
 - ④ 規準を示す。（「～してはならない。」ではなく、「～なときには～する。」）
- (イ) 意欲や元気の源になるエネルギーをたくさん与える。
 - ① 分かる楽しさを与える。
 - ② 自分のよさや自分との違いのよさを認める。（「これまで気が付かなかった自分や級友のよさを先生が教えてくれた。」）
- (ウ) 児童が自分の周りに起こる様々な問題を解決しながら、他者と調和的に生きていくための社会的能力を育てる。
- (エ) 児童会活動など児童が自主的に取り組むいじめ問題への取組を支援する。

イ 道徳教育の充実

道徳の授業を通して、児童の自己肯定感を高め、すべての教育活動において道徳教育を実践し、人権尊重の精神や思いやりの心を育てるために、次の点に留意し、道徳教育の充実を図る。

- (ア) 本校の道徳教育全体計画に基づき、重点目標を具体化する。
 - ① 道徳の授業の着実な実践と充実を図り、人間としての生き方を追求していく。
 - ② 豊かな体験学習を推進する。
- (イ) 「彩の国の道徳」「指導資料集」「学級づくり羅針盤」を活用し、児童一人一人の自尊感情を高めていく。
- (ウ) 「春日部の道徳」を用い、「活用事例集」を活用した、いじめを生まない

ウ 教職員の意識向上

「いじめの未然防止」として最も大事なことは「何も起こっていないときの指導の大切さ」である。いじめを未然に防ぐことやいじめが起きたとしても早期に解決が図れるようにするために、教師一人一人が普段の指導について謙虚に振り返るために、次の点に留意する。

- (ア) 児童の悩みを親身になって受け止め、児童の出すサインを、あらゆる機会を捉えて見逃さない。
- (イ) 自分の学級や学校にも深刻ないじめ問題が発生するという危機意識を持ってあたる。
- (ウ) いじめられている児童を守り通すことを最優先に指導・支援する。
- (エ) 教師がいじめの発生に関わっている場合もあることに十分留意する。

- ① 教師の不用意な一言が「いじめ」の発生を許容している場合
- ② 教師の言動が結果的に「いじめ」の発生を許容している場合
- ③ 教師の指導が徹底されず、「いじめ」の土壌を温存させている場合

エ 保護者同士のネットワークづくり

「いじめの未然防止」には、保護者の協力が不可欠であり、特に、保護者同士が知り合いだといじめのブレーキが掛かることが多い。そこで次の点に留意し、学校でも保護者同士の関係づくりを図っていく。

- (ア) 学級懇談会等を活用し、いじめ防止の対策について話し合う。
- (イ) P T A活動を通して、いじめの防止等のための保護者の役割についての啓発を図る。

オ インターネットを通じて行われるいじめの防止

児童がインターネット上のいじめに遭遇しないために、情報モラルの徹底を図ることが大切である。そのために、次の点に留意する。

- (ア) 学活等を活用して、ネット問題について児童向け学習会を毎年度実施する。
- (イ) 「青少年のネットモラル啓発DVD」等の具体的な資料等の活用を図る。
- (ウ) 児童の意識啓発とともに、ホームページや配布資料等を活用して、保護者の意識啓発も図る。

カ 春日部市元気アップ推進委員会が取り組む事業への参加

「いじめ・不登校」問題の解消に向けて、春日部市が重点的に取り組む「スーパー元気さわやかキャンペーン」に対し、本校でも次の点に留意し、重点的に取り組んでいく。

- (ア) 児童の実態に応じた取組を行う。
 - ① いじめに関する資料を用いた道徳授業、学級活動
 - ② 児童が主体となって運営する児童集会
 - ③ テーマに応じた、児童による掲示物の作成
- (イ) スーパー元気さわやか集会に積極的に参加していく。
 - ① 代表者による作文発表
 - ② 保護者、地域住民、小中学生との意見交換

(2) いじめ早期発見のための取組

いじめは大人の目につきにくい時間や場所で行われたり、遊びやふざけあいを装って行われたりするなど、大人が気づきにくく、判断しにくいことが多い。このことを教職員は認識し、ささいな兆候であっても、いじめではないかとの疑いを持って、早い段階からの確に関わりを持ち、いじめを隠したり軽視したりすることなく、いじめを積極的に認知する。次の点に留意して、いじめの早期発見に努める。

ア 保護者や地域、関係機関との連携

- (ア) 保護者からの相談には、家庭訪問や面談により迅速かつ誠実に努める。
- (イ) 必要に応じて、市民生活相談課、子育て支援課、教育相談センター、関係小中学校等の関係諸機関と連携して課題解決に臨む。

イ 児童及び保護者からの情報収集

- (ア) 毎月「元気に仲良くチェックカード」を実施する。
- (イ) 「元気に仲良くチェックカード」の実施から、必要に応じて、一人一人と直接話をしていく。
- (ウ) 連絡帳や日記などから、交友関係や相談事の把握に努める。
- (エ) 必要に応じ、保護者からアンケート調査を実施する。

ウ 「New I's」の活用

- (ア) 「いじめ発見のチェックポイント」を活用し、該当する項目がある児童に声を掛け、該当する項目が複数あるときには、関係職員に相談する。
- (イ) 「いじめの見極めと状況別対応」を参考に、いじめの早期発見に向けた校内体制を確立する。
- (ウ) 「いじめの取組のチェックポイント」を活用し、指導体制、教育指導の在り方、早期発見・早期対応に向けた体制、家庭・地域との連携の在り方について、学校を挙げて改善に努める。

(3) いじめに対する早期対応

いじめの発見・通報を受けた場合には、教職員が個人で判断したり、一部の教職員で抱え込んだりすることが無いよう、速やかに組織的に対応し、いじめられている児童を守り通すとともに、いじめている児童に対しては、当該児童の人格の成長を旨として、教育的配慮の下、毅然とした態度で指導する。これらの対応について、教職員全員の共通理解、保護者の協力、関係機関・専門機関との連携の下で、次の点に留意して取り組む。

ア いじめている児童への指導（「New I's」参照）

（ア） いじめている児童への説諭

いじめの内容や関係する児童について十分把握し、人権の保護に配慮しながら、いじめが人間の生き方として許されないことを理解させ、直ちにいじめをやめさせる。

（イ） 再発を防止するために、児童への指導と保護者への助言を継続的に行う。

（ウ） いじめの内容によっては、警察等との連携を図る。

イ いじめられている児童への支援（「New I's」参照）

（ア） 共感的態度で話を聴く

「いじめられる側にも問題がある」という考え方のないように留意する。さらに、本人のプライドを傷つけないように注意する。

（イ） 安心して教育が受けられるために必要があると認められるときは、保護者と連携を図りながら、一定期間、別室等において学習を行う等の措置を講ずる。

ウ 周りではやし立てる児童への対応

（ア） はやし立てることなどは、いじめ行為と同じであることを理解させる。

（イ） いじめられている児童の気持ちを考えさせ、いじめている側と同様の立場であると気づかせる。

エ 見て見ぬふりをする児童への対応

（ア） 傍観は、いじめ行為への加担と同じであることに気づかせる。

（イ） いじめは、他人事でないことを理解させ、いじめを知らせる勇気を持たせる。

オ 学級への対応

次の点に留意し、いじめの早期対応、早期解消に努める。

- ① 話し合いなどを通して、いじめを考える。
- ② 見て見ぬふりをしないよう指導する。
- ③ 自らの意志によって、行動がとれるように指導する。
- ④ いじめは許されないという断固たる教師の姿勢を示す。
- ⑤ 道徳教育の充実を図る。また、特別活動を通して、好ましい人間関係を築く。
- ⑥ 行事等を通して、学級の連帯感を育てる。

カ 他校の児童（生徒）が関わるいじめに関する対応

本校の教職員が、いじめに係る相談等において他校の児童（生徒）が関わるいじめの事実があると思われるときは、当該校への連絡、その他適切な措置をとる。

キ 春日部市教育委員会への報告

- (ア) 法第23条第2項に基づき、いじめに対する措置の結果を春日部市教育委員会へ速やかに報告する。
- (イ) 犯罪行為として取り扱うべきいじめについては、教育委員会及び警察署等と連携して対処する。

第3 重大事態への対処

1 重大事態の定義【いじめ防止対策推進法 第28条】

(学校の設置者又はその設置する学校による対処)

学校の設置者又はその設置する学校は、次に掲げる場合には、その事態（以下「重大事態」という。）に対処し、及び当該重大事態と同種の事態の発生の防止に資するため、速やかに、当該学校の設置者又はその設置する学校の下に組織を設け、質問票の使用その他の適切な方法により当該重大事態に係る事実関係を明確にするための調査を行うものとする。

- 一 いじめにより当該学校に在籍する児童等の生命、心身又は財産に重大な被害が生じた疑いがあると認めるとき。
 - 二 いじめにより当該学校に在籍する児童等が相当の期間学校を欠席する（年間30日を目安とし、一定期間連続して欠席している場合も含む）ことを余儀なくされている疑いがあると認めるとき。
- 2 学校の設置者又はその設置する学校は、前項の規定による調査を行ったときは、当該調査に係るいじめを受けた児童等及びその保護者に対し、当該調査に係る重大事態の事実関係等その他の必要な情報を適切に提供するものとする。
- 3 第一項の規定により学校が調査を行う場合においては、当該学校の設置者は、同項の規定による調査及び前項の規定による情報の提供について必要な指導及び支援を行うものとする。

2 重大事態への対処の流れ

- (1) 「重大事態」の意味を全関係者が理解しておく。
- (2) いじめられて重大事態に至ったという申出が児童や保護者からあったときは、学校がいじめによる重大事態ではないと考えたとしても、重大事態が発生したものとして報告・調査等に当たる。

- (3) 重大事態が発生した場合、本校は春日部市教育委員会へ事態発生について報告し、教育委員会の指導を仰ぎながら事態へ対応していく。
- (4) 本校は、推進委員会により当該重大事態に関する調査を行う。(個々の重大事態により、専門的知識及び経験を有する当該いじめ事案の関係者と直接の人間関係又は特別の利害関係を有しない第三者の参加を図る。)
- (5) (4) の調査は、客観的な事実関係を速やかに、正確に把握するための調査である。また、いじめ行為の事実関係を、可能な限り網羅的に明確にするものであり、因果関係の特定を急がない。また、法第23条第2項に基づき、本校として既に調査している事案であっても、重大事態となった時点で、本校は調査資料の再分析や必要に応じて新たな調査を実施する。
- (6) (4) の調査に先立ち、アンケートにより得られた調査結果は、いじめられている児童や保護者に提供する場合があることを調査対象となる児童や保護者に、あらかじめ説明しておく。
- (7) (4) の調査を行った推進委員会は、明らかになった事実関係をいじめられている児童及びその保護者に適切に提供する。
- (8) その他留意事項
- ア 情報発信・報道対応については、プライバシーへの配慮の上、正確で一貫した情報提供が必要であり、初期の段階で情報がないからといって、トラブルや不適切な対応がなかったと決めつけることや、断片的な情報で誤解を与えることのないよう留意する。
- イ 「New I's」の「Ⅱ 自殺予防対策編『資料』」も参考にする。特に、亡くなった児童の尊厳の保持や、児童の自殺は連鎖(後追い)の可能性があることなどを踏まえ、報道機関への対応に特別の注意が必要である。
- ウ 関係のあった児童が深く傷つき、他の児童や保護者、地域にも不安や動揺が広がったり、時には事実に基づかない風評等が流れたりする場合もある。本校は、児童や保護者への心のケアと落ち着いた学校生活を取り戻すための支援に努めるとともに、予断のない一貫した情報発信、個人のプライバシーへの配慮に留意する。

第4 その他いじめの防止等のための対策に関する重要事項

本校は、推進委員会において毎年度、豊野小学校基本方針にある各施策の効果を検証し、豊野小学校基本方針の見直しを検討する。検討の結果、必要があると認められるときは、その結果に基づいて必要な措置を講じる。

【資料1】いじめの防止のための取組チェックリスト

【2】 いじめの取組のチェックポイント

項目	項目	評価	
指導体制	1	いじめの問題の重大性を全校職員が認識し、校長を中心に一致協力体制を確立して実践を行っているか。	
	2	いじめの態様、原因・経緯、具体的な指導上の留意点等について職員会議などの場で取り上げ、教職員の共通理解を図っているか。	
	3	いじめをはじめとする問題行動等に対しては、あらかじめ定められている指導基準に基づき、「してはいけないこととはしてはいけない」と毅然としたはっきり強い指導を行っているか。	
	4	いじめられている子どもの立場に立った指導を行うとともに、いじめられている児童生徒を守りとおす姿勢を示しているか。	
	5	いじめの問題について、特定の教員が抱え込んだり、事実を隠したりすることなく、報告・連絡・相談・確認を確実にし、学校全体で対応する体制が確立しているか。	
校内	6	お互いを思いやり、尊重し、生命や人権を大切にすることを指導等の元玉にしているか、特に「いじめは人間として許されない」との強い認識に立って指導にあたっているか。	
	7	学校全体として、校長をはじめ各教員がそれぞれの指導場面においていじめの問題に関する指導の機会を設け、積極的に指導を行うよう努めているか。	
	8	運動や学芸活動(部・山・川)の研修にいじめに関わる問題を取り上げ、指導が行われているか。	
	9	学級活動(山・川)や児童生学会活動などにおいて、いじめの問題との関わりで適切な指導が示されているか。	
	10	児童生徒に幅広い生活体験を積みませたり、社会性の養育や豊かな情操を培う活動の積極的な展開を図っているか。	
	11	教職員の活動が、児童生徒を導くだけでなく、幼い児童生徒によるいじめを防止したりすることの多いよう指導の注意を払っているか。	
	12	いじめを行う児童生徒に対しては、適切な背景の理解や適切な指導計画による指導の他、状況によっては、出席停止(保護者)や警察との連携による指導も視野に入れた、毅然とした対応を行うこととしているか。	
	13	いじめられる児童生徒に対しては、心のケアやさまざまな学力的指導等、いじめから守り通すための対応を行っているか。	
	14	いじめが解消したと見られる場合でも、継続して十分な注意を払い、前にも無必要な指導を行っているか。	
	15	部活動(中学生)における生徒同士の人間関係等を積極的に把握し、良好な関係が築けるよう指導しているか。	

校外	16	授業標準を確立するために指導方針や指導標準を明確に示して、全校職員で取り組んでいるか。
	17	教職員は、日常の教育活動を通じ、教職員と児童生徒、児童生徒間のほほましい人間関係の醸成に努めているか。
	18	児童生徒の生活実態について、きめ細かく把握に努めているか。
	19	児童生徒が抱える悩み等を迅速さず、その一つ一つの量に配慮しているか。
	20	いじめについて訴えなどがあつたときは、問題を軽視することなく、保護者や人間関係からの情報収集を通じて事実関係の把握を正確かつ迅速に行い、事実を隠蔽することなく、的確に対応しているか。
	21	いじめの問題解決のため、教育委員会との連携を密にするとともに、必要に応じて教育センター、児童相談所、警察等の関係機関と連携協力を図っているか。
	22	校内に児童生徒の悩みや疑問を受け止められることができるような専門機関(スクールカウンセラー、相談員等)の体制が整備されているか。また、それは適切に機能しているか。
	23	学校における教育指導体制について、保護者にも十分理解され、保護者の悩みに応えることができる体制になっているか。
	24	教育指導の場面にあたっては、必要に応じて教育センター等の専門機関との連携が図られているか。また、教育センター、児童相談所等学校以外の相談窓口について、周知や広聴の徹底が行われているか。
	25	児童生徒等の個人情報の取扱いについて、ガイドラインに基づき適切に取扱われているか。
家庭訪問との連携	26	学校におけるいじめへの対応方針や指導方針等を公表し、保護者や地域住民の理解を得られるようにしているか。
	27	家庭や地域に対して、いじめの問題の重要性の認識を高めるとともに、家庭訪問や学校連絡などを通じて、家庭との関係構築に努めているか。
	28	いじめが起きた場合、学校として専断での連携を密にし、一貫してその解決にあたっているか。いじめの問題について、学校のみで解決することに閉鎖しているような状況はないか。



-16-

-17-

早期発見のための教職員用チェックリスト (生徒指導ハンドブック New I 's p12, 13)

【資料1】

家庭用いじめ発見チェックシート(詳細別)



1 起床から登校前	<ul style="list-style-type: none"> ◇布団からなかなか出てこなかったり、異音がきこえる ◇けだるそうな、疲れた表情である ◇いつもと違って朝食を食べようとしな ◇ぼんやりしたり、ふざげこんでいたりする ◇学校に行くのを渋ったり、登校時の集合場所に行きたがらない
2 登校中	<ul style="list-style-type: none"> ◇友達の前物を持たされている ◇一人で登校するようになる ◇道回りして登校している ◇道中で家に戻ってくる
3 帰宅時	<ul style="list-style-type: none"> ◇理由のほっきりしない服の汚れ、襟れやボタンのほつれがある ◇あざや擦り傷があつてもその理由を言わない ◇自分の部屋に顔が赤み、なかなか出てこない ◇いつもより帰宅が遅い ◇自転車や持ち物等が壊されている ◇学校の話をしなくなる ◇外出しなくなる ◇プリントが壊れている、道具や持ち物に劣悪さがある
4 夕食時から就寝まで	<ul style="list-style-type: none"> ◇食欲がない ◇特定の友達に対する言葉遣いが不自然にないである ◇友達の話をしなくなったり、いつも遊んでいた友達と遊ぶなくなったりする ◇お金の使い方が荒くなったり、扉前を持ち出すようになる ◇部屋にある持ち物や学用品がなくなっていく ◇買い与えた買えない品物を持っている ◇メールをこっそり見る、通っている携帯電話に出たがらない ◇部屋に閉じこもりがちで、好きな趣味などにも興味がなくなる ◇家族の者と話をしなくなる ◇いじめの話をすると強く否定する ◇おや味をいじめると、急に乱暴になったり情緒不安定になる ◇壊れた様子であったり、なかなか直つていなかったりしている ◇無罪より願わたり、逆に明るく楽しんだりする感じがする

持ち物の点検	<ul style="list-style-type: none"> □持ち物がなくなつたこと、よく探しても見つからない □服が汚れている、壊れている □泣いている、または机に伏せたままである □自分の持ち物でないものを机やロッカー、カバンに入れている
制活動・クラブ活動	<ul style="list-style-type: none"> □参加しないことが多い、表情が暗い □一人で、大変な仕事(準備や片付け)をやられる □ペアの練習で、いつも取り残される □練習のふりをして、ボールを当てられたり、体当たりされたりしている □他の部員から強い口調で注意されたり、言い走りにされたりしている □探めたいなどの訴えがある □理由のほっきりしないけが、あざ、汚れがある □道具を壊される □孤立している
放課後から下校時	<ul style="list-style-type: none"> □急いで下校する、あるいはいつまでも学校に構っている □机がひっくり返されたり、ロッカーが壊されたりしている □いつも教師に相談したそうに構って来る □物や持ち物がなくなっている □ゴミ箱の中に持ち物や紙などが捨てられている □校舎内の柱や壁などに墨や糞つような内容の落書きをされている □壊れた物物を持たされている □道回りして帰る □一人で帰る
学校生活全般	<ul style="list-style-type: none"> □話の嫌がる仕事や大変な仕事を押し付けられる □一人で黙って仕事をしている □ふざけた言動の中で、学級委員や班長に選ばれる □嫌嫌に意見を押し付けられる □悪意や筆金などの提出物が遅れる □一人の子の机や持ち物をさわろうとしない □連絡帳、生活ノート、絵画作品等にかげりのある表現が見受けられる

いじめ早期発見のチェックポイント

ポイント:

- 該当する項目があれば、子どもに声をかける。
- 複数該当する項目があれば、学年指導員に相談する。



-18-

-19-

【資料2】早期発見のための家庭用チェックリスト

(生徒指導ハンドブックNew I ' s p31)

いじめ発見のチェックポイント		当てはまる 子どもの数
総合的	<input type="checkbox"/> 担任が来るまで廊下で待っている <input type="checkbox"/> 他の子よりも早く早く登校する <input type="checkbox"/> 理由のほっきりしない遅刻や欠席が多くなる <input type="checkbox"/> 担任のあいさつや出席簿確認のときに返事が無い、または極端に小さい <input type="checkbox"/> 机など表情や緊張した様子をしている <input type="checkbox"/> 一人遅れて教室に入ってくる <input type="checkbox"/> 授業の始めに用具が整っていない <input type="checkbox"/> 忘れ物が多くなる <input type="checkbox"/> 班決めなどのとき、話し合いの輪に入れない <input type="checkbox"/> 指名などを避けたとき、その子の名前があがったり、凶ざげ、半分に用紙をたためたりする <input type="checkbox"/> 決められると、嘲笑やからかい等浮き出る <input type="checkbox"/> 正しい意見などに治やかされる <input type="checkbox"/> 発表の数が少なくなり、活発さがなくなる <input type="checkbox"/> 教室の掲示物や作品、机に傷をきやいたずらされる <input type="checkbox"/> その子への配布物を嫌がる雰囲気がある <input type="checkbox"/> 実験などの後片付けをいつもちやらかされている <input type="checkbox"/> 通員や掃除にさわりをさせられず、順番がなかなか回ってこない <input type="checkbox"/> 音楽の授業で歌えなくなる <input type="checkbox"/> 内緒話をされている <input type="checkbox"/> 不自然に机や椅子が離されている <input type="checkbox"/> 不潔な言葉、保護者に行くことが増える	
授業の開始時及び授業	<input type="checkbox"/> いっぺん一人でボツンとしている <input type="checkbox"/> 笑顔が見られずおどおどしている <input type="checkbox"/> 特に出事がないのによく職員室に来る <input type="checkbox"/> 移動教室のとき、荷物を持たされている <input type="checkbox"/> 活動時間などにどこかでやられている <input type="checkbox"/> 保健室や相談室に来る回数が多くなる <input type="checkbox"/> 授業が始まってからも教室に戻りたがらない <input type="checkbox"/> 机を寄せて席を背向しない、または寄せても隙間がある <input type="checkbox"/> 表や物にいたずらされる(無断的な配り忘れ、盛り付けの量の差など) <input type="checkbox"/> 給食を食べない、食後がない <input type="checkbox"/> 早食い競争などがやられている <input type="checkbox"/> 転倒を繰り返している <input type="checkbox"/> いつもの片付けをさせられている	
休み時間	<input type="checkbox"/> 一人黙々と清掃しているが、表情が悪い <input type="checkbox"/> 机や椅子が壊れずに、放置されている <input type="checkbox"/> 衣服が汚れたり、ぬれたりしている <input type="checkbox"/> 清掃後、教室に授業に遅れてくる	
給食時	<input type="checkbox"/> 一人黙々と清掃しているが、表情が悪い <input type="checkbox"/> 机や椅子が壊れずに、放置されている <input type="checkbox"/> 衣服が汚れたり、ぬれたりしている <input type="checkbox"/> 清掃後、教室に授業に遅れてくる	
清掃時	<input type="checkbox"/> 一人黙々と清掃しているが、表情が悪い <input type="checkbox"/> 机や椅子が壊れずに、放置されている <input type="checkbox"/> 衣服が汚れたり、ぬれたりしている <input type="checkbox"/> 清掃後、教室に授業に遅れてくる	

-12-

児童、保護者向けの学校生活アンケート (生徒指導ハンドブックNew I ' s p35)

豊野小 元気に仲よく チェックカード

月 _____ 年 _____ 組 _____ 名 _____

※【 ・ 】の、どちらかに○をつけてください。

わたし・ぼくは、

①元気で、.....【 はい ・ いいえ 】

②みんなと仲良くしています。.....【 はい ・ いいえ 】

③学校が楽しいです。.....【 はい ・ いいえ 】

④学校に友達がいいます。.....【 はい ・ いいえ 】

⑤遊んでいます。.....【 はい ・ いいえ 】

⑥いじめられています。.....【 はい ・ いいえ 】

【 学校の人に ・ その他の人に 】

⑦いじめられている人を知っています。...【 はい ・ いいえ 】

【 学校の人に ・ その他の人に 】

⑧いじめをしています。.....【 はい ・ いいえ 】

【 学校の人に ・ その他の人に 】

「先生、あのね。」(何かあったら、書いてください)

学校生活についてのアンケート【保護者用・例】

このアンケートは皆さんのお子さんが、いじめがなく安心して学校生活をされるようにすることを目的に行うものです。現在の状態に最も近いものに「○」を付けてください。また、兄弟姉妹がいる場合でも、それぞれのお子さんについて別々の用紙に御記入ください。

お子さんの学校生活で、以下の(例)のような困り事はありますか？

(例)

- おやひしやからのい、悪口や脅し文句、いやなことを言われる。
- 机はずれ、机回による悪戯をされる。
- 靴くぶつかられたり、筆箱ふりをして車かれたり、戻られたりする。
- ひどくぶつかられたり、車かれたり、戻られたりする。
- 食品を要求される。
- 食品を隠されたり、壊されたり、捨てられたりする。
- いやなこと、恥ずかしいことや危険なことをされたり、させられたりする。
- パソコンや携帯電話等で、誹謗中傷やいやなことをされる。

お子さん 小・中・高 () 学年 () 性別 ()

質問項目	回答
① うちの子供は学校で、ほかの子供から(例)のような事をされている。	はい いいえ わからない
② うちの子供は学校で、ほかの子供に(例)のような事をしている。	はい いいえ わからない
③ うちの子供から学校で、(例)のような事をされたという話を聞いたことがある。	はい いいえ
④ うちの子供のほかに、(例)のような事があるほかの保護者や教師の方から聞いたことがある。	はい いいえ
⑤ 家庭で、(例)のような問題について子供と話をすることがある。	はい いいえ

質問項目①～⑤で「はい」と回答した方は書き添え欄で、その内容を御記入ください。

※ 具体的な相談があれば、学校まで御連絡ください。

-15-

【資料3】 豊野小学校 いじめ問題への組織的対応図

